

30 年度運営方針 自己評価結果の総括

1 年間の取組成果と今後取り組みたいこと

区運営方針に掲げる各経営課題の戦略ごとの具体的取組については、着実に推進できており、目標は概ね達成し、一定の成果を得ることができたと認識している。



30 年度運営方針に掲げる、各経営課題のめざすべき将来像・自己評価を要約したものです。詳細は都島区運営方針 ([ホームページ](#)) をご覧ください。



経営課題 1 安全・安心のまちづくり

平成 30 年に発生した大阪府北部地震や台風 21 号は、区内でも多くの被害をもたらした。こうした状況を受け、自助・共助による避難所開設訓練や防災出前講座など地域の自主防災組織の取り組みを支援するとともに、医療福祉関係機関との連携に取り組んだ。とりわけ、医療救護の初期初動体制を確保するため、区内医療機関と医薬品等を備蓄する協定の締結を行った。

また、地域や警察を連携した子どもの見守りや街頭犯罪防止に向けた啓発活動、路上喫煙や自転車マナー向上など区民・事業者等と協働した取り組みを進めた。

めざすべき将来像（10～20 年を念頭に設定）と取り組み

防災のまちづくり

- ・全区民が災害時の備えをし、**避難行動できる状態**

【30 年度の主な取組実績】

- ・地域防災訓練の支援
- ・出前講座、地域イベント等での啓発
- ・医薬品等の備蓄に係る協定の締結 など

防犯のまちづくり

- ・全区民が防犯を意識し、**街頭犯罪が起きない環境**が整っている状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・警察等と連携した防犯キャンペーン
- ・防犯教室、防犯出前講座
- ・青色防犯パトロールカーによる深夜時間帯の巡回 など

人に優しいまちづくり

- ・喫煙マナーが守られるなど、人に優しく、誰もが**安全に通行**ができる状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・路上喫煙禁止地区（京橋地域）での市民協働型の啓発活動
- ・喫煙マナー向上に向けた啓発活動など

自己評価

- ・地域、行政、関係機関と連携した訓練や出前講座等の実施を通じて、**区民の防災意識**は高い水準を維持しているが、大規模災害に備え、引き続き、事業所・施設との連携に加え、自主防災組織への支援などの取り組みを進める。
- ・**街頭犯罪減少**に向けて、日中や夜間の青色防犯パトロール、防犯キャンペーン等に取り組んだ結果、大阪重点犯罪 5 手口の区内犯罪発生件数は大幅に減少したが、深夜間の街頭犯罪発生件数は増加しているため、引き続き、警察や地域と連携した効果的な啓発等の取り組みを進める。
- ・京橋地域での**路上喫煙マナー**が向上していると感じる区民の割合が 5 割にとどまっていることから、引き続き地域等とも連携し、市民協働型の啓発活動等の取り組みを進める。

30 年度運営方針 自己評価結果の総括



経営課題 2 人と人がつながり、助け合うまちづくり

地域活動協議会を中心としたコミュニティの活性化、区民まつりなど、地域のつながりづくりや幅広い区民のまちづくり参加促進に取り組んだ。

また、住民に身近な相談窓口としての機能を担う地域福祉コーディネーターを中心に、地域の見守りネットワークを強化し、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが安心して暮らせる健康・福祉の取り組みを推進した。

めざすべき将来像（10～20 年を念頭に設定）と取り組み

地域コミュニティの活性化

- これまで培われてきた人と人との「つながり」や「きずな」を礎にしながら、若い世代やマンション住民など、より幅広く人と人がつながり、身近な地域の中で生活課題の解決に取り組むなど、地域コミュニティが活性化している状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・区民まつり
- ・生涯学習フェスティバル など

住民主体の自律的な地域運営の実現

- 多様な活動主体が相互に理解し信頼し合いながら、地域の課題の解消に取り組む住民主体の自律的な地域運営が進められている状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・地域活動協議会補助金交付 9 地域
- ・地域のニーズ、課題に応じた各種事業実施
- ・地域活動協議会の事務局機能強化支援 など

いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

- 身近なところに福祉の相談窓口があり、気兼ねなく利用できる状態
- 区民がいきいきと健康で生活することができる状態
- 子どもの心の安らかな発達が促進され、母親が安心して母乳育児ができ、育児不安が解消される状態
- 保護者が安心して子育てでき、環境に左右されることなく、子どもの可能性が最大限活かされる状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・地域福祉コーディネーター活動
- ・健康づくりのつどい
- ・子育て支援室での相談 など

自己評価

- ・区民まつりを区民参加型で開催し、地域のつながりが拡大したと感じた参加者の割合は向上した（29 比 16 ポイント増）。

引き続き、より多様な層が参加できるよう検討していく。

- ・地域活動協議会による自律的な取り組みは進んでいるが、昨年は多くの地域で役員交代があり、自律的な運営が進んでいると感じている地域活動協議会の構成員の割合は業績目標に達しなかった（28・29 平均比 4 ポイント減）。

今後、組織運営が属人的なものとならないよう、各種マニュアルの整備・活用を促進する。

- ・中間支援組織の支援に満足している地域活動協議会の構成員の割合は向上した（29 比 7 ポイント増）。

引き続き、地域活動協議会を中心とした自律した地域運営が進められるよう取り組んでいく。

- ・地域福祉コーディネーターの活動は、9,000 件以上の実績で推移するものの、認知度は横ばい。引き続き、認知度向上の取り組みを進めていく。

- ・健康展等の事業は健康づくりへのきっかけとなっているものの、定期的に検診等を受けると回答した割合は横ばい。今後、周知を含めた工夫を行っていく。

- ・母乳育児に係る各種教室、出産直前講座等の充実に取り組み、各講座における、母乳育児について不安が解消された参加者の割合は業績目標を達成。今後もより充実した取り組みを展開していく。

- ・地域の子育て情報の周知や相談窓口の拡充を積極的に行い、相談件数は業績目標を上回った。子どもの成長とともに変化していく子育てに関する様々な相談に対応するため、継続して取り組んでいく。

30 年度運営方針 自己評価結果の総括



経営課題 3 明日に誇れるまちづくり

蕪村などの歴史・文化、まちの魅力について、インターネットを活用した動画発信をはじめ、おおさか東線城北公園通駅の開業を機にまちの活性化をテーマにトークイベント「ぶっちゃけ！都島」を開催した。また、区ゆかりの音楽家・貴志康一を題材に、中学校吹奏楽・合唱合同発表会を区内ショッピングモールで開催し、文化を通じて青少年人材育成に取り組んだ。

「未来の都島を担う人材育成」では、スクールソーシャルワーカー(SSW)による子ども相談をはじめ、小・中学生対象の英対話講座等を実施するなど、教育施策の推進や子育てしやすい環境の整備などに取り組んだ。

めざすべき将来像（10～20年を念頭に設定）と取り組み

魅力あるまちづくり

- ・ まちの魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態

【30年度の主な取組実績】

- ・ 水辺イベント等のPR動画の配信
- ・ トークイベント「ぶっちゃけ！都島」の開催
- ・ 貴志康一の楽曲を含む中学校吹奏楽・合唱指導及び発表会 など

未来の都島を担う人材育成

- ・ 経済状況や家庭環境に左右されることなく、全ての子どもの可能性が最大限活かされる状態

【30年度の主な取組実績】

- ・ 中学校対象の英対話講座
- ・ 小学生対象の英語体験活動・イベント
- ・ SSWによる巡回訪問・ケース対応 など

自己評価

- ・ **水辺イベント**等のPR動画をインターネット配信し、視聴回数は大幅に増加した(29比 55%増)。また、トークイベント「ぶっちゃけ！都島」を開催、活発な意見交換が行われた。引き続き、民間活力による水辺の賑わいづくり、まちの魅力発信に取り組んでいく。
- ・ **中学校吹奏楽・合唱力向上事業**では、貴志康一を題材に、中学生を対象にプロによる作品理解・技術指導を踏まえ、合同発表会を区内ショッピングモールで開催により、幅広い方々に聞いていただくことができたが、地域にゆかりのある芸術文化に対する興味が深まった参加者の割合は業績目標に達しなかった。今後、より効果的な実施手法を検討していく。
- ・ SSWの対応件数は増加(29比 63%増)。SSWと学校の協働体制や教員のSSWの認知度向上をより一層促進するよう取り組んでいく。
- ・ **グローバル人材育成事業**では、英対話講座等を実施し、今後外国人と積極的に対話・会話をしようとする児童・生徒の割合は業績目標を達成。一方で、応募者が少なかったため、今後、児童・生徒が参加しやすいよう実施方法等を見直し、取り組んでいく。

運営方針 P.19

みやレポ P.18

30 年度運営方針 自己評価結果の総括

経営課題 4 区役所力の強化

区政会議や区民アンケートなどを様々な機会を活用して、多様な区民の意見やニーズを的確に把握し、区民の声が区政に反映される仕組みづくりに取り組んだ。また、広報誌の全戸配付、SNS 等によるタイムリーな情報発信に取り組んだ。

「区民が満足・納得できる区役所運営」では、職員の接遇研修をはじめ、5S 推進体制チームの活動を通じた窓口サービス向上の取り組み、利便性の高い区役所づくりを進めた。

めざすべき将来像（10～20 年を念頭に設定）と取り組み

区民の声が区政に反映される仕組みづくり

- ・多様な区民の意見やニーズを的確に把握し、区の特長や地域実情に応じた施策・事業を展開できている状態
- ・区政に関する情報が区民全体に届き、区の特長や地域実情に即した区政が運営され、区民主体の自治が実現している状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・区民アンケート
- ・広報誌の全戸配付
- ・区政会議 など

総合行政の拠点としての区役所づくり

- ・区役所が、区民に身近な総合行政の拠点として、信頼されている状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・広聴・各種相談事業
- ・行政連絡調整会議 など

区民が満足・納得できる区役所運営

- ・区役所が、区民・来庁者にとって快適で満足できる場所となるとともに、区役所業務の運営に、区民が納得していただける状態

【30 年度の主な取組実績】

- ・記念撮影コーナーのリニューアル
- ・職員の接遇スキルアップ向上
- ・5S 活動・標準化の実施 など

自己評価

- ・区政会議委員のアンケートにおいて、各委員からの意見や要望、評価について適切なフィードバックが行われたと感じる委員の割合は業績目標を下回った（29 比 4 ポイント減）。今後、意見や評価等の反映状況をより分かりやすく説明できるよう改善に取り組む。
- ・広報誌、ホームページ、SNS による情報発信について、約半数が「情報が役に立った」と回答（区民アンケート）。引き続き、各媒体の特性を生かした効果的な情報発信に取り組む。
- ・当区が担当する「市民の声」の平均回答日数は 11.7 日であったが、区役所以外の部局が担当するものを含めると目標を達成できなかった。今後も区役所と関係機関との連携を強化しサービスの向上に努める。
- ・「来庁者等に対する窓口サービス」の格付け結果は「評価点 3.5 2 つ」を達成。引き続き、職員の接遇スキルアップを図り、窓口サービスの向上に努める。

運営方針

P.25

みやレポ

P.24

解決すべき課題と今後の改善方向

「市政改革プラン 2.0 区政編」の改革の柱である、「地域社会における住民自治の拡充」について、地域活動協議会の認知度向上や、担い手不足の解消など、解決すべき課題があると認識している。

「安心のまち、人がつながるまち、明日に誇れるまち」の実現に向け、地域活動やイベント情報を、広報誌の連載などあらゆる機会を通じて発信し、地域コミュニティの活性化につなげていくとともに、子どもの健やかな成長の支援や、区民の意見・ニーズの的確な把握に努めるなど、より効果的な区政運営に取り組んでいく。